

平成22年度 日本赤十字放射線技師学術総会 学術総会報告

総務部 辻 秀憲

平成22年6月10日(木)～11日(金)の2日間、会員109名(71施設)出席のもとに、東京国際フォーラムG409号室にて第1回学術総会が開催されました。今回は、本社が工事の関係で、東京国際フォーラムで開催。

挨拶には、日本赤十字放射線技師会 益井謙会長、そして、本社講演として医療事業部次長 竹内賢治様による「赤十字病院を取り巻く医療環境について」、学術講演は、CT分科会世話人 長野赤十字病院 八町淳様による「研究課題の見つけ方・すすめ方 -CT造影法を中心として-」、教育講演は、京都大学医学部附属病院技師長 東村享治氏による「放射線部における医療安全管理について」、この他に、国際活動をされている和歌山医療センターの2人による、海外救援活動報告、各分科会による報告、そして、今回、業者3社による、ランチョンセミナーやナイトセミナーを企画、GEヘルスケアジャパン社大越厚氏による「医療におけるデータ共有の現状と将来」、日本メジフィジックス社高谷佳秀氏による「平成22年度DPC改定の概要と核医学検査の位置づけ」、東芝メディカルシステム社淀健治氏による「Everyday clinical Use ～日常臨床で有用な新しい領域の3テスラ Vantage Titan3T～」のそれぞれの講義であった。今回も、インターネット環境を準備し、会員に提供してHPの理解をしていただいた。また、参加者に、学術総会におけるアンケートを取り、今後の総会をさらに充実させるために協力をお願いした。

会員研究発表は、16演題あり、CT、MRI、マンモ、治療その他とバラエティにとんだ研究発表で、それぞれ活発な質問や意見交換が飛びかわされ、有意義な研究発表であった。今年度も最優秀発表賞、優秀発表賞の最終選考が行われ、以下の4名の方々が受賞されました。また、今回、特別賞として、日本赤十字社の医療事業部次長賞を設け、海外救援活動の和歌山医療センターの2人が受賞されました。

最優秀発表賞

楠 理恵氏(京都第二赤十字病院)

優秀発表賞

加賀 久喜氏(大阪赤十字病院)

高津 安男氏(大阪赤十字病院)

西海 哲也氏(神戸赤十字病院)

次長賞

和歌山医療センター 川村 佳生氏、口井 信孝氏

10日(木)の午後4時から、第57回定期総会が行われました。11日(金)の午後3時30分には、研修会が終了し、その後、各ブロック別連絡会議が行われ、午後4時には、全行程を終了しました。

平成 22 年度 日本赤十字放射線技師学会学術総会プログラム

【6月10日(木)】

- 9:30~10:00 受付
- 10:00~10:10 開会式 開会宣言 日本赤十字放射線技師会会長 益井 謙
- 10:10~10:50 本社講演 座長 益井 謙(会長)
「赤十字病院を取り巻く医療環境について」 医療事業部 次長 竹内 賢治 様
- 11:00~12:10 学術講演 座長 藤村 貴順 (CT分科会 盛岡)
「研究課題の見つけ方・すすめ方 -CT 造影法を中心として-」
長野赤十字病院 八町 淳 様
- 12:10~13:00 ランチョンセミナー① 座長 石田 智広(福井)
「医療におけるデータ共有の現状と将来」 GEヘルスケア・ジャパン株式会社ヘルスケア IT 本部
イメージング事業部マーケティング部長 大越 厚氏
- 13:20~14:10 学術研究発表① 座長 八町 淳 (CT分科会 長野)
- ① 冠動脈CTAにおける造影効果に影響する要因の検討 大阪赤十字病院 加賀 久喜
- ② 「死亡時画像検査」所見からの撮影条件の検討 大田原赤十字病院 中野 繁明
- ③ OPE室CTの年間使用実績とその有用性の検討 名古屋第一赤十字病院 山崎 絵莉
- ④ DPC導入によるCT検査採算性の検討 名古屋第二赤十字病院 日置 竹志
- 14:20~15:10 学術研究発表② 座長 安彦 茂 (MR分科会 仙台)
- ⑤ ファントム実験によるGd造影後における、in-phase・out-of-phaseでの脂肪評価の検証
松山赤十字病院 松村 茂
- ⑥ 頸動脈内膜剥離術(CEA)術前における非造影MR検査についての一考察
大阪赤十字病院 高津 安男
- ⑦ 四肢MRI検査におけるコイル選択と撮像条件設定の検討 大田原赤十字病院 大谷津 崇
- ⑧ 放射線技術課におけるインシデント事例の統計 和歌山医療センター 渡邊 真也
- 15:20~15:50 国際活動 座長 久保田 利夫(前橋)
- ① 海外救援活動報告 日本赤十字社 和歌山医療センター 川村 佳生
- ② 海外救援要因として活動するためには 日本赤十字社 和歌山医療センター 口井 信孝
- 16:00~17:00 総会
- 17:00~17:30 ナイトセミナー 座長 清水 文孝(深谷)
『Everyday clinical Use ~日常臨床で有用な新しい領域の3テスラ Vantage Titan 3T~』
東芝メディカルシステムズ株式会社 営業推進部 MR I担当 淀 健治氏

【6月11日(金)】

- 9:00~10:00 学術研究発表③ 座長 川合 佳代(乳房画像分科会 深谷)
- ⑨ STマンモグラフィガイド下生検装置におけるポジショニング、ターゲティング習得の
ための石灰化擬似ファントムの作成 さいたま赤十字病院 北山 早苗
- ⑩ 1 Shot PhantomにおけるCNRの評価 京都第二赤十字病院 楠 理恵
- ⑪ マンモトームを使用したステレオガイド下バイオプシの技術的検討
鳥取赤十字病院 上田 阿希
- ⑫ ステレオガイド下マンモトーム装置導入の報告と検討 福岡赤十字病院 桑野 さゆり
- ⑬ 救急撮影における脊椎固定具が胸部画像に与える影響と画像評価
秋田赤十字病院 三浦 直樹
- 10:10~10:50 学術研究発表④ 座長 口井 信孝(和歌山医療センター)
- ⑭ EPIDを用いたIGRTにおける位置照合精度の検討 成田赤十字病院 大山 淳一
- ⑮ コリメータ回転軸外線量評価点に対応したMU値検証プログラムの開発
神戸赤十字病院 西海 哲也
- ⑯ スタッフ間の早期情報共有化に対する取り組み~電子カルテ端末(RIS端末)の有効利用~
福井赤十字病院 西川 由梨

- 11:00~12:10 分科会報告 座長 浅妻 厚 (神戸)
 ① 乳房検査の標準化について MR分科会 岩見 守人 (姫路)
 ② MRI 検査における説明用 DVD 作成について MR分科会 高津 安男 (大阪)
 ③ アンケート結果報告 CT分科会 藤村 貴順 (盛岡)
- 12:10~13:00 ランチョンセミナー② 座長 清水 文孝 (深谷)
 「平成22年度DPC改定の概要と核医学検査の位置づけ」
 日本メジフィジックス株式会社 営業企画部 マネージャー 高谷 佳秀氏
- 13:30~14:50 教育講演 座長 辻 秀憲 (京都第二)
 「放射線部における医療安全管理について」
 京都大学医学部附属病院 放射線技師長 東村 享治 様
- 15:00~15:20 ブロック連絡会議
 15:20~15:40 優秀発表賞表彰式
 15:40~16:00 出席証明書授与および閉会式

日本赤十字放射線技師学術総会の船出

日本赤十字放射線技師会 会長 益井 謙

その日、平成22年6月10日、東京国際フォーラムは、陽光を閉じ込め、多湿の東京湾の浜風を、その船型の美体になびかせていた。この日、我々の日本赤十字放射線技師学術総会は、この母船に姿を遷して新たな青史を刻む処女航海に出帆するのだ。その日、梅雨前線北上直前の天は、抜けるような青空で我々に微笑んでいた。

従来の業務研修会の旧名を廃し、学術総会として新生船出した航海日誌の一頁目は、東京フォーラムG409より始まると記されたのである。

時代は、大航海時代の再来の如く、風雲と嵐を呼び、その荒天波乱に人々を怖気付かせていたが、フォーラムの艦橋のG409会議場に集結した会員は、上気しながらも至って平静平穏であった。荒海を恐れぬ時代を担う者の気概は、何時でも湿れる松明を燃やすように静かな風の様相を帯びるものなのである。

そこでは、全国の赤十字病院の担い手や舵取りが、100名以上参集して、赤十字医学総会と棲み分けを目指した自立した新システムを理解し、能動的機能的に刷新されたパフォーマンスを、自ら淡々と努めていくのである。

そこは自然科学世界の大海原、その波頭を乗り越え、各々が積極的に活用運営勇躍する場であり、舞台なのである。学術発表は、学術分科会の長(おさ)が、航海長として取り仕切る。本社講演は燈台。眩しいが航路を照らす。学術講演や教育講演は羅針盤。知的好奇心の方向性を示し、航路の学術的方向性を確保する。災害救護や分科会報告はバラストやキール。船体を安定させ、実学の荷崩れを防ぐ。

役員である各理事は、水面下の船底で煮えたぎった内燃機関に油を注ぎ、パワーを加減する海技機関士であり、全国の通信網を制御するIT通信士でもある。喫水線を挟み、水面上と水面下と運命共同体(船体)の協調に拠り、航跡の乱れを補正する。

今や57年利用した懐かしの埠頭の岸から離れ、雄々しいチームスピリットの汽笛を響かせて学問の水平線の彼方に向かって船出した。

船出の夜、7階の最上艦橋では、満天の星の如き大都の夜景に眼を瞞りながら、向上無限の航海の安全を各々が祈願したのである。

教育講演

「放射線部における医療安全管理について」

京都大学医学部附属病院 放射線技師長 東村 享治

平成19年4月医療法施行規則一部改正から、病院では医療機器の安全管理について管理責任者の設置や研修の実施、医療機器の保守点検計画及び修理内容記録管理等の安全確保体制の整備が必要となった。また、外部評価として、病院機能評価やISO9001等部外からの目を通してチェック項目を検討することも、放射線機器の安全管理体制の強化に繋がっている。

このような医療を取り巻く環境が変化していく中で、ますます高度化されて、専門的な知識が必要とされる放射線機器の安全管理については、現場でどのような管理体制が必要かを報告する。特に放射線機器のリスクマネジメントとして下記の4つの項目が挙げられる。

- ① 始業終業点検等の放射線機器の正常動作確認チェックリストによる安全管理の実施
- ② 定期検査により、放射線機器の時系列的な変化の評価
- ③ 機器の添付文書の内容確認と現場管理
- ④ 不具合に気づき、それらをすぐに情報共有して改善できるPDCAサイクル作り

そして安全対策の基本は、スタッフの全員参加による患者本位の安全確保を第一、現場での気づきをインシデント等として、ミスから学ぶ姿勢で情報共有した安全システムを整備することである。今回は、その一部事例を紹介します。

本社講演「赤十字病院を取り巻く医療環境について」 医療事業部 次長 竹内 賢治

学術講演 「研究課題の見つけ方・すすめ方 -CT 造影法を中心として-

長野赤十字病院

八町 淳

ランチョンセミナー① 「医療におけるデータセンターの現状と将来」

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社 ヘルスケア IT 本部 イメージング事業部
マーケティング部長 大越 厚

最近の ICT (Information and Communication Technology) の急速な進歩は目覚ましいものがある。医療分野においても ICT の活用により病院内、病院間での効率的な医療情報の転送・伝達が可能になり医療業務の改善に役立っている。

例えば、遠隔画像診断では高速な光ファイバー回線を安価で利用できるようになり、病院間を仮想専用回線・VPN (Virtual Private Network) 接続することで短時間で大容量の画像データを転送することができるようになり、読影医不足の解決に役立っていて既に多くの実績を残している。一方、個々の病院では画像診断機器の高性能化により、年々病院内で保管しなければいけない画像、診療情報のデータ量が増大しており、そのデータ保管に対するコスト増大 (システム費用、保守・管理費用、管理工数等)、セキュリティー対策や災害等に対する安全面の対策も大きな問題になってきている。

さらに、国の施策としても医療施設間の機能分化を一層進めようとする中で、施設をまたいでデータの交換や共有の必要性が高まっている。

そこで、今後益々増大する医療画像・診療情報をより安価でより効率的に、そして安全にデータを一元管理・保管できるデータ共有の必要性が増してきており、今後数年で急速に普及する可能性があると考えられる。

現在 GE では、この時代のユーズに答えるべくデータ共有の仕組み作りに向けて各種の取り組みを行っている。今回は、データ共有化の現状と今後の動向を問題点を交えて紹介する。

ランチョンセミナー② 「平成22年度DPC改定の概要と核医学検査の位置づけ」

日本メジフィジックス株式会社 営業企画部 マネージャー 高谷佳秀

平成22年度診療報酬改定では入院医療に多くの財源が配分されたが、いまや急性期入院医療を担っている病院の過半数はDPCを導入している状況となっている。今回はH22年度診療報酬改定、特にDPC制度について概要を述べるとともに、核医学検査の扱いについて報告する。

○10年ぶりのプラス改定

政権公約もあり高い改定率が期待されたが、厳しい経済状況もあって、平成22年度診療報酬の全体改定率は+0.19%とわずかながらも10年ぶりのネットプラス改定となった。重点課題として、①救急、産科、小児、外科等の医療の再建、②病院勤務医の負担軽減が挙げられ、入院医療に約4,400億（外来：約400億）が配分された。難易度の高い手術料の引き上げも加わって、3次救急も手がける基幹病院クラスには手厚い改定となった。

○DPC対象病院の増加

平成15年に特定機能病院82病院に導入されたDPC制度は、その後毎回参加病院が増加し、H22年度は準備病院を含めると1500を超える病院数となった。DPC算定病床では、48万床を超え一般病床の50%を占めるにいたっている。

○平成22年度DPC改定の基本的な考え方

- (1) 入院基本料等の引き上げ及び改定率の反映
- (2) 調整係数の段階的な新たな機能評価係数への置換え
 - 調整係数による“上積み相当部分”のうち、25%を置き換える。
 - 各機能評価係数への配分は「救急医療係数」を除き等分に配分
- (3) 包括点数の診療実態に即した見直し
 - 診断群分類の分岐については、さらなる精緻化を行う

○H22年度DPC改定における核医学検査の位置づけ

画像診断は包括対象であるが、DPCではどのような診療行為を行なったかにより診療報酬点数が異なる仕組みになっており、以下の診断群では核医学検査を行った場合、1日あたり点数が高くなる診断群が設定されている。

- ・ 循環器疾患：急性心筋梗塞、狭心症、心筋症、拡張型心筋症、心不全、肺塞栓症
- ・ 中枢神経疾患：脳梗塞、脳腫瘍、てんかん、パーキンソン病、認知症、基底核等の変性疾患
- ・ 呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患

核医学検査に対する支払いが考慮されている診断群に対しては、入院治療期間を考慮して検査を行い、評価の高い診療報酬の支払いを受けることが可能である。

ナイトセミナー

『Everyday clinical Use ～日常臨床で有用な新しい領域の3テスラ Vantage Titan 3T～』

東芝メディカルシステムズ株式会社 営業推進部 MRI担当 淀 健治

国際活動 ① 海外救援活動報告

日本赤十字社 和歌山医療センター 川村 佳生

- 1、 ERU
約一カ月間の派遣
発災直後の緊急医療救援活動
- 2、 復興支援
最低三カ月以上の派遣

国際活動 ② 海外救援要因として活動するためには

日本赤十字社 和歌山医療センター 口井 信孝

海外派遣要員の養成にかかる研修体系について

- 1、 研修体系変更の趣旨
- 2、 国際救援・開発協力要員研修Ⅰ (WORC: World of Red Cross and Red Crescent)
- 3、 国際救援・開発協力要員研修Ⅱ (IMPACT: International Mobilization and Preparation for Action)
- 4、 受講資格要件
- 5、 海外派遣要員養成のための各研修と登録までの流れ
- 6、 その他

分科会報告 ①

乳房検査の標準化について

MR分科会 岩見 守人 (姫路)

分科会報告 ②

MRI 検査における説明用 DVD 作成について

MR分科会 高津 安男 (大阪)

MRI 検査を施行するにあたっては、様々な注意点が存在する。それによるストレスや不安が懸念される。検査内容の理解を深めることによる不安軽減や、安全性や円滑性の向上のため、検査説明用 DVD を作成・導入し、注意・工夫した点や効果についてまとめた。ワークグループを立ち上げ、作成計画をし、絵コンテを基にしてシーン別に撮影を行った。編集、討議を繰り返し、最終的に病院承認をとるようにした。さらに、モニター設置位置を決定し、完成した DVD を病院ボランティアに見てもらい、アンケートにて評価した。結果、理解度や不安に関して対応できていると思われ、効果が期待された。検査手順を見てもらい、理解を深めることで不安が緩和されていると思われる。

分科会報告 ③

アンケート結果報告

CT分科会 藤村 貴順 (盛岡)

第57回 定期総会 議事録

1. 日時 : 平成22年6月10日(木) 午後4時 ~ 5時
2. 会場 : 東京国際フォーラム G409号会議室
3. 出席者 : 日本赤十字放射線技師会 会員 108名
4. 議事録作成人 常任理事 総務担当 辻 秀憲
5. 総会次第
 - ① 開会の辞
 - ② 会長挨拶
 - ③ 表彰
 - ④ 総会議事運営報告
 - ⑤ 議長選出
 - ⑥ 議事録署名人選出、採決係り任命
 - ⑦ 議事
 - 第1号議案 平成21年度事業経過報告
 - 第2号議案 平成21年度決算報告
 - 第3号議案 平成21年度監査報告
 - 第4号議案 平成22年度事業計画(案)
 - 第5号議案 平成22年度予算(案)
 - 第6号議案 その他
 - ⑧ 議長解任
 - ⑨ 閉会の辞

上記の総会次第に基づいて、当技師会 益井会長の挨拶にはじまり、表彰に移る。
表彰委員長の戸口理事により紹介される

功労賞は、17名 奨励賞は、施設 1、個人 1名

表彰後、次に、総会議事運営報告(資格審査報告)を事務局の磯田理事より報告。

本日の出席者 108名、委任状提出者 1081名、合計 1189名を確認し、会則第20条の規定に基づき本総会は成立しますと報告。

次に、議長選出となる。会場より立候補がないため、執行部より2名を推薦した。

山口赤十字病院 中川 明様 仙台赤十字病院 高橋 和義様

議長より、議事録署名人・採決係りを会場より4名を任命

議事録署名人は、 姫路赤十字病院 岩見 守人様

大阪赤十字病院 加賀 久喜様

採決係りは、 名古屋第二赤十字病院 堀部 良美様

福井赤十字病院 西川 由梨様

議長の進行により議事に入る。

第1号議案から第3号議案まで一括して執行部より報告。

報告後、質問に入るが、質問はなかった。

採決にはいり、第1号議案から第3号議案までは、賛成多数で承認された。

次に第4号議案から第5号議案まで一括して執行部より報告。

報告後、質問に入るが、質問はなかった。

採決にはいり、第4号議案から第5号議案までは、賛成多数で承認された。

次に第6号議案の報告を執行部より報告。

・事務局の磯田理事より、“日本赤十字放射線技師会慶弔規定の第4条”の省略を報告。

“金品については、近年来、出していないため、省略する”

報告後、質問に入るが、質問はなかった。

採決にはいり、賛成多数で承認された。

・報告事項として、表彰部の戸口理事より、表彰規定の改定を報告された。

4月16日の全国理事会で、承認されているため報告のみであった。

議長より、議事以外で、他に発言を求められる方許可するで、1名の発言があった。

Q：医療技術部があるが、放射線科が、部に入ったり、入らない施設があるが、本社としては、どう対応するのか。（和歌山医療センター 口井）

A：医療技術部について、本社では、検討中。施設ごとに事情があり、施設に委ねられているのが現状。このままだと、混乱する可能性がある。技師長という立場についてなど本社と密に対応していく。（会長）

以上にて、議事を終了したので、議長は解任となった。

最後、清水副会長に閉会の辞をもって、総会は終了となった。

以上

平成22年 月 日

議事録署名人 _____ ⑩

議事録署名人 _____ ⑩